

# 相生山緑地 オアシスの森くらぶ ニュースレター24号 2005.5.28発行

発行 オアシスの森くらぶ  
編集委員会  
発行人 大館 学  
編集長 近藤 真史

## 定例活動／1月29日(土) 「ツツジの園づくり&コナラの再生」

真弓 浩二

1月の定例会は、オアシスの森誕生の原動力とも言える、元祖「柴刈り大会」の流れをくむ「ツツジの園づくり」でした。

毎年、この日は暖かな良い天気恵まれ、3年前から手がけている南向きの尾根には、飛び入りの参加者も含めて総勢16名が集まりました。

ここ梅林西側尾根筋では、1本も植えることなく、林内照度の改善のみによってツツジの園をつくることを目標にこれまで活動を重ねてきました。3年目になる今年は、徐々にその効果も見え始めてきました。



▲健全で生長力のある多様な森のあり方を説く林進教授(左端)

この日は、講師の林進先生にツツジの開花のメカニズムについてミニレクチャーを受けたあと、ツツジの指標木2本を選び、それぞれ花芽の数を計測しました。この指標木については今後も花芽数の計測を続け、管理の効果が



▲照度改善によるツツジの園づくりに重要な落ち葉かき

花芽数にどのように影響するかを継続調査していくこととしました。



▲花芽の計測では2本の指標木に各々467個と367個の花芽を確認

お昼には、これまた恒例となった野浪さん手製のモチをごちそうになり、みんなで楽しい一時を過ごしました。



▲野浪さん特製のモチをオアシスの森特性の竹炭で焼いて食べる。至福の時。

午後は活動エリアを尾根の南西斜面に拡大し、病虫害で衰退傾向が見られたコナラなどの除伐をおこない、萌芽



更新による森の再生区域を設けました。ここも健全で生長力のある森づくりの一環として今後保全活動を継続的に行っていきたいと思います。

この日の手入れで得られたコナラの幹は、椎茸のホダ木として利用しようと、2月に特別活動として「椎茸の菌打ち」を行うことになりました。森を若返らせるために伐られた木もまた森からの恵みです。小さな試みですが森と人が繋がる営みとして実感できるといいですね。



▲将来の森の主林木をつくる森の再生作業



▲満開時のツツジの園

(4月初旬撮影:右上の写真とも)

## 特別活動／2月12日(土) 「椎茸菌打ち作業」

伊藤 晶子

昭和30年代以前の里山林は、20～30年毎に伐採され萌芽更新で常に若返りを繰り返していた林ですが、昭和30年代のエネルギー革命以降、林は伐採されずに今日に至っています。

オアシスの森のコナラやアベマキは、今や10数メートルにそびえ立ち、過熟林になっています。これらの木々が寿命を迎える頃に森林の崩壊となる可能性もあります。

それで、1月の定例会で実験的に萌芽更新区域を作りました。その折にコナラ材が出ました。コナラ材は、椎茸のホダ木に適しています。



▲ドリルで空けた穴に駒菌を打ち込む

コナラ材を道具小屋まで運び、青空の下電気ドリルを唸らせて駒菌を打ち込む穴をあけました。タテ列15cm間隔、列間は3cmくらいになるよう小気味よく木くずを飛ばして穴をあけ、駒菌を次々と打ち込んでいきました。午前中



に500個打ち込みました。菌を打ち込んだ木は、棒積みにしてシートを掛け仮伏せにしてあります。1～2ヶ月後、組み替えて木伏せにします。

細い原木では運が良ければ来年の春、他の木は再来年の春に椎茸を出してくれるでしょう。再来年の萌木まつりでは椎茸の竹炭焼きを賞味できるかも……。

## 定例活動／2月26日(土) 「アカマツ林再生とプラスα」

大館 学

2月の定例活動の定番になりましたアカマツ林再生プロジェクトも今年で4年目を迎え、オアシスの森の西端、散策エリアも徐々にアカマツの育つ環境に変わりつつあります。今日は初めての人もあったためか10時のスタート時には17名の参加者が集いの広場に集まりました。のこぎり、熊手を用意して出発。良い天候に恵まれて、散策エリア西の覗きからは白く雪をいただいた伊吹山や藤原岳がくっきりと望め皆うっとり。



▲アカマツ林の光環境を阻害する灌木を取り除く

作業はアカマツの実生苗にも注意しながらの林床にたまった落ち葉などのゴウカきや、小さなアカマツの光環境改善のための灌木の剪定など体力勝負の作業に上着を脱ぎだす人もちらほら。もちろん長年放置されていたエリアや

昨年まで手入れをした区域にも多くの枯れ松があり、3台のチェーンソーが大活躍。柴材や枯れ松は森の片隅に集め積み上げ景観にも配慮して作業は進められ、2時間の作業が終わった頃にはゴウカきを終えきれいになった森に冬の暖かな光が差し込み、皆自分たちの作業に満足のできばえとなりました。さて、本日は午後の部として、しいたけの駒菌打ちと3月の萌木祭りに備えた化粧炭づくりや竹のお猪口試作などいろいろ予定があり、アカマツは午前のみ。



▲空き缶を使った化粧炭づくり

小屋のウッドデッキに場所を移しお弁当。中島さん差し入れのビールを飲みながら、七輪に竹炭を点火。火の用心にはもちろん十分配慮して、本日小屋に配備したばかりの強化液入りの消



▲陽光がたっぷり降り注ぐ作業後のアカマツ林

火器を準備。空き缶に入れた大きな松ぼっくりを小一時間ほど火にかけるだけで見事な「化粧炭」の出来上がり。続いて細めのハチクで作ったお猪口を燻してみる。ハチクの甘い香りがあたりに漂い、10分ほどで緑鮮やかなお猪口の出来上がり。萌木祭りが楽しみです。シイタケの駒菌も200個打ち、前回とあわせ700個となりました。



▲12日の特別活動に引き続きシイタケの駒菌打ち

こうして楽しんでいると時間のたつのは早いもの。日が陰ってきて少し寒くなり解散となりました。

定例活動 / 3月26日(土)

# 「第7回 萌木祭り ～テーマ“食”～」

大館 学・伊藤 晶子

恒例となった春の萌木祭りも7回目を迎え、今年も昨年好評だった「食」をテーマに～森の恵みを食す～と題して集いの広場が森のレストランとなりました。もともとは森の邪魔者「竹」を有効に使ってやるうじゃないかとの思いが発端で、竹食器や竹串など什器として、くらぶで焼いた竹炭を燃料とし、またこの時期ならではの早取りタケノコを食材として竹の有効利用で里山管理を見直そうというものです。

さて、当日は準備中に小雨が降り始めましたが、空には明るいところもあったので準備を続行。開会時には、お招きした森のパートナーシップからの17名（宮前の森林くらぶ、みよし里山まもり隊、環境研究所、おかざき自然体験の森）、森くらぶメンバー16名が集まり、雨もやんで賑やかな開会となりました。

午前中は竹林班と山菜班に分かれて活動。竹林班は、什器や竹細工の材料調達を兼ねて、山根口近くの竹林の除伐作業へ。



一方、山菜班は天白ブレーパークの白石さんを顧問に山菜採りに出発。まずは7年前に菌を植え付けたホダ木から、ふっくらとしたシイタケ8個を採取。そのほかミツバ、ノグシ、カラスノエンドウ、セイタカアワダチソウ、ヒメオドリコソウ、ユキノシタ、クコ、ヨモギ、ヤブカンゾウなど13種を摘み取って集いの広場に戻りました。

広場では定番の豚汁ができあがり、竹炭の火の上では野浪さん特製の餅（ヨモギモチも）が焼け、田楽も香ばしく焼き上がっていました。竹林班が戻り、切り出した竹で竹皿を作って料理を盛り昼食です。元プロの松岡さんと五十川さんが山菜を天ぷらにしてくれました。その美味しいこと！さらに中島さんの用意した竹のカッポ酒（安い酒を若竹に入れて一晩置いたもの→特級酒になる？）もあり、本当に盛りだくさんでした。昼食後は、オアシスの森の



梅で作った梅酒を飲みながら、蛭川さんのオカリナ演奏を楽しみました。

午後は、辻本さん指導による竹細工教室に参加者が熱心に竹細工に取り組みました。苦勞してヒゴを曲げて作った竹ひご風車がくるくる回ると大歓声です。



祭り終了後には山根コミセンにて雑木林連絡会の交流会も開かれ、里山の問題について熱心に討議が行なわれました。

小雨が降ったり突風が吹いたり、天気はくるくる変わりましたが、思い切り食べ、しゃべり、思い切り幸せになった森の一日でした。

## シリーズ『森の住人たち』①①

～ケラ～

### 春の夜の鳴き声



\*フェノロジー：生物季節（学）。季節的におこる自然界の動植物が示す諸現象の時間的変化及びその気候あるいは気象との関連を研究する学問。

ケラ科

体長 3cm

環境 土中に住む。日本全土。

オタマジャクシとヤゴをテーマにした観察会を毎年春に行っている。子どもたちのカラフルな服装と歓声が、トンボ池の周囲に賑わいをそえる。オタマジャクシの群れをひとすくいで、キャッキヤと喜んでいる幼い子どもや、手足を泥だらけにして笑顔をふりまいている子どももいる。

「変わったものがいたけど、なんですか」女の子が、両手にそっと包むようにしてもってきた。

「すごいもの見つけたね。なんだと思う？」首をかき上げて、母親の方をふり向く。親も判らないといって首をふる。

「夜、『ジー』と鳴くんだけど、聞いたことあるかな？」

残念なことに、親子共々、全く知らないという。「ちょっと、前足を見て。どんな形をしてい

るかな」まるで、シャベル。いかにも効率よく土中にトンネルを掘って前進できそうな前足だ。低く、ジーと単調な鳴き声は、「ミミズが鳴いている」と思われていた。

ケラは、土の中で生活し、さらに水の中で泳ぐこともできるし、空を飛ぶこともできる。万能選手なのだ。トライアスロンに出場すれば、優勝間違いなし！

さて、このところ私がケラに注目しているのは、ヒメボタルの出現期近くに鳴き始めるからである。ジーという鳴き声が聞こえ始めると、そろそろヒメボタルの観察シーズン開幕のシグナルなのだ。フェノロジー\*のおもしろさを、ケラにも教えられたのである。

(文責 自然案内人 近藤 記巳子)

# 定例活動 / 4月23日(土) 「2005年度 総会」

永田 修二



4月23日に山根コミセンで2005年度総会が開催されました。14名の出席者があり、2004年度の活動報告、決算報告があり全員の賛成で承認されました。続いて今年度の活動計画、予算案の発表があり、これも全員の賛成で今年度の活動方針が決まりました。

今年度の役員は会長大館さんほか、前年度に引き続き担当することになりました。また、近藤(真)さんが公園愛護会の会長に決まりました。

主な議決内容は次のとおりです。

### ★2005年度活動計画の付帯意見

○活動は、担当者にこだわらず多数の積極的な参加を望む。

○どんぐり祭りについて

・チラシの作成を早く行い社会福祉協議会その他多数に告知できるように努める。

・名古屋市中でもPRできるようにする。

・祭りの時のスタッフが少なく、皆が参加することを呼びかける。

○特別活動の提案を多数いただきたい。

○潜在会員の掘り起こしを行い、活発な活動を継続したい。

### ★役員改選

会長：大館

副会長・運営委員長：真弓

書記：近藤(真)

会計：村田

会計監査：小池

副運営委員長：永田

公園愛護会会長：近藤(真) (新任)

## 悲報 / くらぶの小屋焼失

5月21日(土)午後5時頃、くらぶの小屋が火災に遭い、ほぼ全焼してしまいました。

人的被害がなかったことや山火事に至らなかったことが不幸中の幸いと言えますが、工具や資材など中にあった物も全て焼失する非常に悲惨な事態となりました。

原因は放火の疑いが極めて強く、皆憤りの気持ちでいっぱいです。

不審者などのお心当たりやお気づきの点などありましたら、事務局までご連絡下さいますようお願いいたします。



## 会員募集中!

このクラブは、相生山緑地オアシスの森を活動の場として、昆虫、鳥類を含めた、多様性のある森づくり、環境づくりなどのフィールドワークを行い、会員同士のふれあいや、オアシスの森を通じて地域の人との交流などを行う、楽しい集いです。

具体的な活動内容は

◆オアシスの森を訪れる人々に、自然観察の方法や楽しみ方を知ってもらえるよう案内する。

◆公園管理者と協力しながら、オアシスの森での植生管理作業を行う。

◆植物、野鳥や地形、地質、気象などの調査を行う。

◆柴刈り大会や自然観察会などのイベントを適宜行う。

◆その他、目的を達成するために必要な事業を行う。

○会費は年間1,500円(保険料含む)です。主に連絡、郵送費です。

○振り込み先(郵便局)

オアシスの森くらぶ 00860-7-33725

連絡は事務局までどうぞ

## 定例活動スケジュール

集いの広場 10時集合

6月25日(土) トンボ池周辺グレードアップ作戦

7月24日(日) 万博笹島サテライト会場・ブース出展

8月27日(土) 森の解説板づくり(室内活動)

9月24日(土) 森の探険(地質を訪ねて)

10月22日(土) 第7回どんぐり祭り(名古屋市協働)

11月26日(土) 竹林管理

12月24日(土) 正月準備(門松づくり・梅の剪定)

### 2006年

1月28日(土) ツツジの園づくり植生管理

2月25日(土) アカマツ林再生プロジェクト

3月25日(土) 第8回萌木まつり

## ホームページ管理・作成 スタッフ 大募集!!

“森くらぶのホームページをもっと楽しくしたい!” “定例活動には出られないけど、自宅のできることでなら手伝いたい”等々、ホームページに興味のある方、是非ご一報を!!

【連絡先】

masashi\_k@muf.biglobe.ne.jp (近藤)

## 情報センター

### ■参加申込みやお問合せなど

事務局

伊藤百寿人 052-895-8523

中島己治男 052-803-9534

### ■ホームページをご覧下さい

URL address : <http://f44.aaa.livedoor.jp/~oasis/index.html>

★ ニュースレター(本号)のカラー版(PDFファイル)がダウンロードできます。

★ 定例活動・特別活動の報告や予告(チラシ)を随時更新しています。